



# 学思

JSPS Beijing

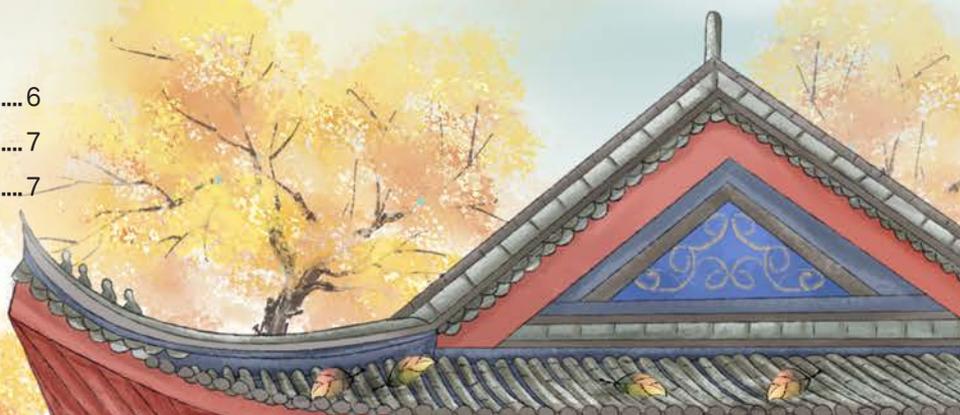
79

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

2024年7月～9月

## 目次

- センター長のコラム.....2
- 活動報告.....3
  - ・ JSPS モンゴル同窓会ワークショップ
  - ・ JSPS 韓国同窓会シンポジウム
  - ・ 南京大学外国語学院主催「交流と相互学習：日本学研究フォーラム」
  - ・ 2024年度希平会総会・第1回連絡会
- 活動記録 (2024年7月～9月).....6
- 着任の挨拶：副センター長 今城佳奈子.....7
- 江岸さんの退職.....7



## 学振と研究費

私が北京に赴任した2022年は、日中国交正常化50周年という記念すべき年でしたが、この年は日本学術振興会(学振)にとっても設立90周年という節目の年でありました。1932年の学振創設当時はその3年前に始まった世界恐慌の荒波が日本にも及んでおり、社会的に厳しい状況にありました。この難局を乗り越えるための根本的な国策として求められたのが学術研究の振興でした。帝国学士院会員が中心となって1931年に政府に提出した建議では、「学術の研究は国家隆盛の基礎にして国威宣揚の要素」であり、「国民の理想を確立し国力の根本を充実し更に世界の文化に寄与して人類の福祉を増進」させる為には、「人文科学自然科学の両方面に亘りて独創的研究を奨励促進」すべきと訴えています。

このように学術研究に日本の活路を見いだそうという政策のもとで、天皇陛下からの御下賜金をもとに創設されたのが学振でした。会長には総理大臣の齋藤實が、理事長には帝国学士院長の櫻井錠二が就任しており、翌1933年には、秩父宮雍仁殿下を総裁として奉戴しております。このような陣容からしても、学振の創設は単なる財団法人の設立にとどまらない国家の命運をかけた重要事業であったということが見て取れます。

学振により開始された事業の主なものとして、個人研究の助成や総合研究の実施があげられますが、総合研究は、「官庁と言わず民間と言わず学界と言わず、あらゆる方面又あらゆる地方の権威ある学者技術者が各問題につきそれぞれ会合して意見の交換を為し以て研究の一般方針と分担とを定めていよいよ研究に着手し更に又時々研究の結果を持寄って之に関する討議を行う」ものでありました。専門分野ごとに委員会を組織して重要課題を推進していくこのような体制は、日本ではじめて多様な部門の研究者をプロジェクト研究のために組織化して実施したものであるとして、日本の科学史上高く評価されており、やがて学振の中核的事業となっていきます。

学振により開始された研究費補助事業は、日本ではじめての本格的な研究費補助事業とされており、当時の櫻井理事長が「研究費欠乏の為に、従来苦悩に苦悩を重ねて来た我学会が精神的に蘇るに至ったかの観がある」と述べていることから、研究者に大いに歓迎されていたものと想像されます。

ところで、欠乏を指摘されていた研究費ですが、当時は「科学奨励金」という研究費補助事業がありました。この「科学奨励金」は1918年に文部省により創設されたもので、これが後の「科学研究費助成事業(科研費)」へと発展していきます。科研費といえば今日でこそ学振にとって最大にして最も重要な事業となっておりますが、歴史的には学振が設立される14年前から存在していたこととなります。この学振と科研費との関係についての紹介は、次回にゆずりたいと思います。

なお、設立当初の学振の英語名は、「Foundation for the Promotion of Scientific and Industrial Research of Japan」でした。それが1936年の「Japan Society for the Promotion of Scientific Research」への変更を経て、1963年に「Japan Society for the Promotion of Science」となっています。また、「長鳴鳥」を図案化した学振のシンボルマークは、1938年に東京美術学校(現東京芸術大学)の和田三造教授が考案したものが原型となっています。

(参考文献) 日本学術振興会「日本学術振興会30年史」1991年9月21日

センター長 山口英幸



## JSPSモンゴル同窓会ワークショップ

2024年8月19日(月)モンゴル・ウランバートル郊外のテレルジにおいて、JSPSモンゴル同窓会ワークショップ(テーマ:"Light Pollution and Its Reduction"(モンゴルにおける光害とその削減について))が開催されました。

JSPSモンゴル同窓会は、過去にJSPS国際交流事業に参加した経験のある研究者が中心となり2023年度に発足しました(2024年8月現在非公認)。現在、正式な認定へ向け活動を行っており、JSPSではモンゴル国内のJSPS事業経験者間の結束力強化及びJSPSのモンゴル国内における認知度向上のため、当該同窓会の活動支援を行っています。

今回のワークショップも同窓会活動の一環として開催されたもので、冒頭では当センターの山口英幸センター長が挨拶を述べた後、杉浦南美国際協力員がJSPSの実施している主要な国際交流事業について説明を行いました。

続いて、本ワークショップのテーマである「"Light Pollution and Its Reduction"(モンゴルにおける光害とその削減について)」について、モンゴル国立大学のTsolmon RENCHIN教授(モンゴル同窓会会長)よりスライドを用いた講演が行われ、その後は講演内容を踏まえた参加者によるディスカッションが行われました。



夜には、野外での天体観測も行われ、以前は満天の星空を見ることができたテレルジにおいても現在では観光客向けのロッジが複数整備されたことによる電灯の光の影響で、星空が見えづらくなっていることを体感しました。

本ワークショップを通じて、BRIDGE Fellowship Programや外国人招へい研究者事業について複数の研究者から質問がありました。また、モンゴル同窓会の正式認定のために必要な手続・資料の詳細についても多数の質問があり、モンゴル同窓会全体として正式認定に向けた動きを加速させようという気運の高まりを感じました。

また、本ワークショップと併せて、前JSPS監事で国際モンゴル学会会長の小長谷有紀先生とモンゴル同窓会との懇談会が開催されたほか、山口センター長ほかがモンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学、在モンゴル日本国大使館を訪問し、意見交換や学生との交流を行いました。



モンゴル国立大学・Bolormaa 教授研究室訪問(2024年8月20日)



モンゴル国立大学・Galtbayar 教授研究室訪問(2024年8月20日)



モンゴル科学技術大学産業技術学部 Tuyatsetseg 学部長訪問(2024年8月21日)

当センターでは、今後もモンゴル同窓会員とJSPS間の連携を強化し、モンゴルのJSPS事業経験者間の交流を深めていくため、同窓会活動の支援を続けてまいります。

## 第17回韓日研究者交流協会 (JSPS 韓国同窓会) シンポジウム

2024年9月26日(木)、韓国・原州市の延世大学未来キャンパスにおいて、第17回韓日研究者交流協会 (JSPS 韓国同窓会) シンポジウム「日韓国際協力交流及び共同研究活性化案」が開催され、研究者・学生等約150名が参加しました。2023年度から、JSPS 北京研究連絡センターがJSPS 韓国同窓会を担当しています。



シンポジウムの様子

開会式では、JSPS 韓国同窓会長である延世大学のキム・テクジュン教授より開会の挨拶があり、続いて延世大学のハ・ヨンソプ未来キャンパス副総長、在大韓民国日本国大使館の田村哲之一等書記官、韓国研究財団 (NRF) のキム・チャンユン国際交流チーム長、当センターの山口英幸センター長より祝辞が述べられました。

その後、2名の韓国同窓会員と2名の日本人研究者による講演では、各講演者が行っている海外機関との共同研究・学術交流の紹介や海外での研究経験の大切さ等が述べられ、参加した若手研究者・学生は熱心に耳を傾けていました。なお、今回、日本人研究者として登壇した横溝教授、前仲教授は、JSPS 事業「特別研究員」の経験者です。



キム・テクジュン同窓会長

事業説明のセッションでは、JSPS と NRF による事業説明が行われ、各機関独自の事業だけでなく、JSPS と NRF が連携して行っている事業も複数紹介されました。終盤のパネルディスカッションでは、「日韓国際協力交流及び共同研究活性化案」をテーマに、日本と韓国との学術交流をより活性化させていくにはどうすべきか熱い議論が交わされました。

事業説明のセッションでは、JSPS と NRF による事業説明が行われ、各機関独自の事業だけでなく、JSPS と NRF が連携して行っている事業も複数紹介されました。終盤のパネルディスカッションでは、「日韓国際協力交流及び共同研究活性化案」をテーマに、日本と韓国との学術交流をより活性化させていくにはどうすべきか熱い議論が交わされました。

JSPS 北京研究連絡センターでは、韓国の研究者の方々が JSPS の各種国際事業採用期間が終了した後も引き続き日本との学術・研究交流を継続していくことができるよう、JSPS 韓国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会活動への支援を続けてまいります。



参加者による集合写真

## 南京大学外国語学院主催

### 「交流と相互学習：日本学研究フォーラム」

2024年9月7日(土)及び8日(日)、江蘇省の南京大学仙林キャンパスにおいて、「交流と相互学習：日本学研究フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、同大外国語学院が主催、中国外文局対外話語創新研究基地、南大日本学研究編集部及びJSPS 北京研究連絡センターの共催で開催され、全国の大学や研究機関に所属する日本学研究の最先端を担う各分野の研究者・学生等約200名が一堂に会しました。



南京大学 何寧院長



杉浦南美 国際協力員

開会式では、同大外国語学院の何寧院長の開会の挨拶に続き、当センターの山口英幸センター長の祝辞(杉浦南美国際協力員が代読)において、日本と中国の学术交流との間には長い交流の歴史があり今後も JSPS



蘭州大学 王冀青教授



南京大学 劉東波助理教授

として様々な事業を通じて日中友好の一層の発展のために貢献していく旨を述べました。

基調講演では、日本学研究のトップクラスの研究者たちによる日本学の様々な分野に関する研究成果や最新の動向に関する講演が行われました。また、テーマ別パネルディスカッションでは、歴史文化、言語文学、

国際関係等をテーマに、各研究者による研究成果の発表をもとに活発な議論が行われました。本フォーラムには、JSPS 中国同窓会員である蘭州大学の王冀青教授、南京大学の劉東波助理教授が登壇しており、同窓会員がフォーラムの成功裏の開催に大きく貢献しています。

また、本フォーラムが日本学研究をテーマとしていることもあり、今後 JSPS の事業を通じて日本で研究を行いたいと意欲的な研究者から申請方法に関する質問を受けることも多く、JSPS 事業や日本での研究活動への関心の高さが伺えました。

北京研究連絡センターは、学術の進展と日中研究者交流の促進を使命としています。センターの後援名義の使用を希望する大学関係者及び研究者の方がいましたら、お気軽に当センターまでご連絡ください。



集合写真

## 2024年度希平会総会・第1回連絡会

2024年9月20日（金）に2024年度希平会総会及び第1回連絡会を開催しました。

対面で15機関24名、オンラインで18機関37名と、多くの方々にご参加いただきました。総会では、佐藤会長（福山市立大学）と川上副会長（創価大学）に引き続き役員をお願いしたい旨が提案され、決議・了承されました。



会議の様子

また、日本教育財団から正会員の参加の申し出があり、決議・了承されました。

各大学等機関からの活動報告では、3大学、5機関より最近の活動状況について報告

がありました。各機関とも対面交流が昨年度よりも増加しており、協定大学等との交流に活気が戻ってきた一年であったと思います。意見交換では佐藤会長から、日中の現状について両国の大学関係者で共に議論する機会を希平会場の場を通じて設けることができない



対面参加者の集合写真

かのご意見がありました。

2024年9月末日現在、希平会は正会員39機関、オブザーバー13機関となっています。今後も連絡会・セミナー開催を通じて、希平会に入会している大学等機関と協力して活動を続けていく予定です。

### センターの活動記録

(2024年7月~9月)

#### 7月

- 5日 中国国家自然科学基金委員会との懇談会
- 12日 全国日本人交流会出席
- 16日 JSPS 本部訪問
- 18日 大学改革支援・学位授与機構訪問
- 20日 日本大使館主催留学説明会参加
- 24日 広報文化十一者会出席、JSPS 中国同窓会員との懇談会
- 25日 中国日本商會会合出席

#### 8月

- 5日 広報文化十一者会出席
- 18~21日 JSPS モンゴル同窓会ワークショップ参加
- 24日 世界ロボット大会フォーラム参加
- 26日 韓国同窓会キム会長との懇談会
- 27日 東京工業大学原正彦教授来訪
- 30日 広報文化十一者会出席

#### 9月

- 1日 今城佳奈子副センター長着任
- 7~8日 南京大学外国語学院主催フォーラム参加
- 9日 鹿児島大学関係者との懇談会
- 9~10日 日中韓学術振興機関長会議 (A-HORCS) 参加
- 20日 2024年度希平会総会・第1回連絡会参加
- 23日 中国国家自然科学基金委員会訪問
- 24日 江岸現地職員永年勤続表彰式
- 25日 広報文化十一者会出席
- 26日 中国日本商會会合出席
- 26~27日 JSPS 韓国同窓会シンポジウム参加

## 着任の挨拶

9月1日よりJSPS北京研究連絡センターの副センター長に就任しました今城佳奈子（いまじょう かなこ）と申します。これまで大学や文部科学省、独立行政法人で高等教育政策に関わる業務に従事してきました。今回、ご縁があって北京で勤務することとなり、初めての海外勤務に心躍っています（実は渡航日は私の誕生日だったので、更に記念すべき日になりました。）。

挨拶文を書いている現在は赴任して2週間目でもうすぐ中秋節です。中国独自のアプリの利用にトライ&エラーを繰り返しながら挑戦中です。特にデリバリーアプリの美团（メイトゥアン）には着任初日からお世話になっています。一刻も早く中国のデジタル社会に染まるとともに、デジタル戦略がなぜここまで急速に

進展しているかを体感していきたいと思います。また、日本には知らなかったであろう中国の情報や文化、習慣にたくさん触れて、現地でしか感じ取れない気づきを得たいと思います。

業務としては、北京センターがこれまで培ってきた様々な日中の繋がりを絶やさず、北京センターメンバーと一丸となって更に促進していきたいと思っています。また、北京センター所管の同窓会組織がより一層活性化されるよう協力・支援していきたいです。個人的な目標としては、良い意味で面の皮を厚くしていきたいです。

経験が乏しくまだまだ未熟者ですが、研究者支援や学術国際交流のために貢献できるよう精励して参りますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



漢民族の民族衣装で写真撮影



煎饼（ジェンピン）という揚げパン入り中華風クレープにハマりました



中秋節のオシャレな月餅



センターメンバーとの昼食会

## 江岸さんの退職

2024年9月30日をもって当センター職員の方の江岸さんが退職されました。また、それに先立って江岸さんの永年勤続表彰式が執り行われました。江さんには2004年採用以来、20年にわたり北京研究連絡センターを支えていただきました。主に中国同窓会や中国の学術振興機関との連絡・調整を担当し、JSPSの仕事に誇りに思い、愛と熱意をもって取り組んでこられました。

20年前に江さんを面接して採用したのは山口センター長であり、表彰式では当時の思い出話に花を咲かせました。実は永年勤続表彰式に着用したスーツは、センターの節目のイベントでこれまで着用したものだそうです。

北京センター一同、江さんの新たな門出をお祈りします。谢谢！

・・・江さんと北京センターとの思い出を振り返る・・・



入職当時の様子（2005.6.2）



北京研究連絡センター開所式（2007.4.24）



北京研究連絡センター10周年記念式典（2017.11.3）



永年勤続表彰式（2024.9.24）

日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路 89 号 中国外文大厦 A 座 404 室

郵便番号 :100089

Tel: + 86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: [beijing@jsps.org.cn](mailto:beijing@jsps.org.cn)

URL: [www.jsps.org.cn](http://www.jsps.org.cn)



WeChat